

ごあいさつ

HIROSHIMA MIDORI SHINKIN BANK

GREETING



皆様には、平素より広島みどり信用金庫に格別のご愛顧を賜り、衷心より厚くお礼申し上げます。

ここに、当金庫の経営内容や1年間の活動状況をご報告するディスクロージャー誌「REPORT 2021」を作成いたしましたので、ご高覧いただき、当金庫へのご理解を一層深めていただければ幸いに存じます。

令和2年度の日本経済は新型コロナウイルスの感染拡大によって、飲食業や観光業を中心に非常に厳しい状況が続いており、今後も感染の拡大状況によっては、種々影響を及ぼすことが予想されます。また、新型コロナウイルス感染症は、テレワークやオンライン会議の導入、キャッシュレス決済の普及など、ウイズコロナを見据えた社会やビジネスモデル自体に大きな変化を引き起こしております。

地方においては、人口減少や少子高齢化の加速度は増しており、経営者の高齢化等の構造的な問題が一層深刻化している状況であります。

金融機関を取り巻く経営環境をみると、長期に亘って執られ続けている超低金利政策により収益力は一段と厳しさを増すものと思われます。

このような環境下、地域金融機関としてお客様との接点の充実を図り、営業基盤の強化に努めてまいりました。その結果、預金平均残高については961億円、貸出金平均残高については358億円とともに事業計画を達成

することができました。収益面では、本業での収益を示すコア業務純益は前期比85百万円増加の388百万円となり、最終的な当期純利益は156百万円とすることができました。

金融機関の健全性・安全性を示す重要指数である自己資本比率は17.94%となり国内基準で求められている4%を大きく上回る水準となっております。

これも偏に、会員の皆様方をはじめ、お取引先各位のご支援ご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

さて、令和3年度は当金庫の中期経営計画（令和2年4月～令和5年3月）の中間年度となります。新型コロナウイルス感染症で地域が苦境にあえぐ中、会員、お客様、そして地域の課題解決を第一に行動し、お客様とのリレーションシップを追求していくことを究極の目標といたします。

従前にも増して、地域の皆様から信頼される信用金庫を目指してまいり所存でございますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年7月

理事長 **小林 明宗**